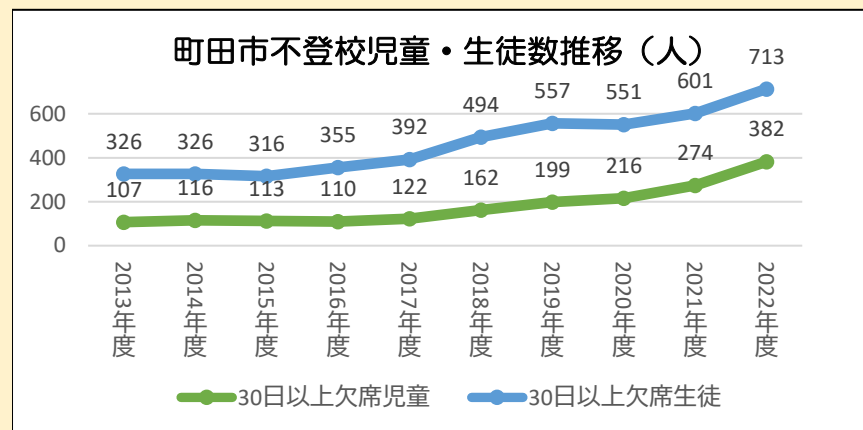


【概要版】学びの多様化プロジェクト2024-2028

『学校に行く子ども行かない子ども、安心して育つまちだ』

現 状

- 全国的に不登校児童生徒数は増加傾向が続いており、2022年度には前年度から22.1%増加し、過去最多の299,048人となりました。
- 文部科学省では、不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにし、一人一人に応じた多様な支援を行うため、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」を策定しています。
- 町田市における年間30日以上欠席の不登校児童生徒数は、増加傾向が続いています。
- 町田市では、不登校児童生徒の学びの場として、教育センター内に教育支援センターを運営して来ました。小学生用のけやき教室と中学生用のくすのき教室があり、いずれも少人数による学習支援や体験活動を実施しています。



不登校施策検討委員会

町田市の不登校施策を総括し、子どもの学びの場の確保をはじめとした今後の取り組むべき事項を精査する。2024年度以降も必要事項を検討していく。

★本プロジェクトの基本方針

町田市では、不登校支援は子どもの育ちを支えるプロセス支援であると捉え、相談先や学びの場等に繋ぎ、継続的に支援を行います。そのため、不登校施策の基本方針として「学校に行く子ども行かない子ども、安心して育つまちだ」を掲げます。

⇒子ども一人ひとりの状況に応じて多様な学びの場を確保し、その学びの場につながるような支援に取り組みます。

★主 な 取 組 内 容

『相談の場づくり』

一番身近な相談の場は学校ですが、その時々に必要な対応や学びの場について相談できるよう、町田市では相談先を整えていきます。

- 学校における相談体制
- 教育センター 教育相談
- 校内専門職 スクールカウンセラー
スクールソーシャルワーカー
- 不登校支援情報一覧
- 保護者の会

『学びの場の確保』

子どもの心身の調子が整っていれば、多様な学びの場を考えることもできます。学校内でも通いやすい場所や、学校以外で学習できる場などがあります。町田市では、子どもの多様な学びの場の確保に取り組んでいきます。

- 校内教育支援センター
- 学びの多様化学校
- 教育支援センター けやき教室・くすのき教室
オンライン対応
- 教育支援センター分室
- 学校におけるオンライン対応

『保護者の支援』

保護者の方がどこをどのように利用できるのか、まどめました。一番身近な相談先は学校ですが、その他にも相談したり情報を得たりできる場の確保に取り組めます。

- 最初の相談は学校へ
- 不登校支援情報一覧
- 教育センター教育相談【学校以外】
- 教育支援センター・学びの多様化学校【学校以外の学びの場】
- 保護者の会【保護者間交流】